

予測できない将来を見据えた教育が必要です

「人間が行う仕事の約半分が機械に奪われる」という予測がマスメディアを駆け巡りました。AI(人工知能)などの研究を行うオックスフォード大学のオズボーン准教授のグループは、702の職種について将来、コンピュータ技術によってどの程度自動化されるかを分析しました。その結果、「今後10~20年の間に、米国の総雇用者の約47%の仕事が自動化される可能性が高い」という結論に至ったのです。

大学教育も、そんな未来の社会の動向に対応していく必要があるのは当然です。知識を獲得することはもちろん大切ですが、それを使いこなす応用力や「知恵」がますます求められていくでしょう。マニュアル通りに動く人の仕事は、コンピュータやロボットに代替され、人間でなくてはなし得ない高度な能力、すなわち、相手の感情を理解し、共感し、その場の状況に則して対応する力が必要です。また、新しい選択肢を生み出す能力、美しい製品や言葉、デザインを生み出す力も、機械には備わっていません。

こうした「高次の能力」は、教室における一斉授業ではなかなか身につけることができません。にもかかわらず、日本の多くの大学は今でも、講義形式の授業が中心なのです。

2014年11月に中央教育審議会は、学習指導要領の中に「アクティブラーニング」の導入を掲げましたが、京都造形

芸術大学は「アクティブラーニング」の最先端を行く教育機関です。文部科学省が方針決定するよりもはるか以前から、1年生が全員履修する「クリエイティブ・ベーシック」(通称「マンティプロジェクト」)、夏期集中で行なわれる「京造ねぶた※」の制作など、創造力とコミュニケーション力を育む本格的な体験学習の場を提供しています。

そして、一人ひとりの学生に対する個別指導も、ますます重要になっています。芸大と言っても、卒業生の進路開拓に万全を期すのは当然の役割。2年次から、この道の第一人者・本田勝裕教授によるキャリア開発のワークショップが設けられるなど、「最新学習歴」を更新し続ける基礎を築く教育プログラムも充実しています。

大学選びも未来志向で考えるべき時代が訪れています。

※「京造ねぶた」は9/19(土)20(日)開催のオープンキャンパスで展示いたします。

京都造形芸術大学教授
創造学習センター長

本間 正人

教育学を超える「学習学」を提唱し、NHK教育TVでビジネス英語を担当。一流企業でコーチングの講師を歴任。著書63冊。東京大学文学部卒、ミネソタ大学からPh.D.取得。



保護者の皆さまも、ぜひオープンキャンパスにご来場ください。

第4回オープンキャンパス 9月19日(土)20日(日)10:00~16:00

◆大学全体説明会(11:00~12:00)

京都造形芸術大学が考える教育とは?今の学生が置かれている状況から、何を考え、どのような教育プログラムを実施しているのか。文部科学省も推奨する本学の特色ある教育プログラムで、学生がどのように成長するのか。他とは違うと言われる、京都造形芸術大学の入試から教育、就職まで。大学の全体像を掴んでいただくには、まずこの大学全体説明会にご参加ください。「芸術大学の価値観が変わった」と毎回好評をいただく説明会です。

<http://www.kyoto-art.ac.jp/opencampus/>

京都造形芸術大学 オープンキャンパス 検索



保護者の皆さまへ

正解がない時代を生き抜くために、進化する芸術大学

【特集】
今、社会で
求められている
教育とは?



